第３分科会　道徳科と他の教育活動との関連

助言者　北斗市立上磯小学校教頭　寒河江　孝之

まずは、貴重な実践を提言していただいた両教諭に心から敬意を表します。学習指導要領には「道徳教育は、道徳科を要として教育活動全体を通じて行う」とあります。各校においては、教科等横断的な視点での教育課程を編成し、道徳科も「別葉」を作成することで、他の教育活動との関連が明確になるようにしてきました。二つの提言は、道徳科を要に、学校課題への取組や児童の実態に即した指導内容とするなど、他の教育活動との関連が図られた具体的な実践紹介となっております。

１　小学校提言『道徳科と特別活動でつくる主題構成』について

道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に必要なのは、子供たちがいかに「問い」や「考え」をもつことができるかということです。大松教諭は、子供たちに向けてその必要性を高めるために「主題構成」を用いて、道徳科と特別活動・儀式的行事との関連を図りました。子供たちに「何ができるようになるのか」身に付けさせたい資質や能力を育成する目標に向けて、計画的に組み立てているところが素晴らしいと考えます。

また、道徳科の授業において、常に自己を見つめさせる中から、子供たちのつぶやきを広げ、問いにつながる共感的な考えを引き出す工夫や視点を与えるなど、細かな手立てを行っています。さらに、日常の子供たちとの何気ない会話から児童の実態を把握し、自由に発言できる環境づくりに努めることで、個々の考えを拾い、複数人での交流につなげ、多角的・多面的な視野を広げていることも分かります。子供たちの振り返りから、まとめが導き出され、それを、次時に生かす流れも参考になりました。

主題を構成する中で、今回、関連性が薄いと感じる内容項目【節度、節制】についても果敢に取り組み、「登場人物の行動のずれを感じる」、「明確ではなくとも違和感をもたせる」ことでねらいに迫る問いをもたせるという、大松教諭の道徳教育に対する研鑽の深さ、熱意を感じました。子供たちからの問いを生かし、教師が考えを引き出す工夫や手立てを講じ、意図的な取り上げを教育活動全体で行っている素晴らしい実践でした。

２　中学校提言『道徳科と他の教育活動との関連』について

コロナ禍の現在、喫緊に解決すべき教育課題が明確になっています。それは、望ましい生活習慣を目指した生活指導を行うと同時に不透明な未来を切り拓き、夢と希望の実現に向けたキャリア教育を充実させることといっても過言ではないと思います。今回、清水教諭は、自校生徒の課題に正面から向き合い、道徳教育をその要とおいた実践に取り組んでいます。

現教育課題は、学校のみで解決することが困難な状況にもなっています。生徒の生活習慣の改善に向け、企業・団体と連携した「快眠講話」の実践では、生徒自身の生活をしっかりと振り返るきっかけを提供し、生活リズムチェックシートの有効活用とあわせて、望ましい生活習慣を身に付ける【節度、節制】につなげることができています。生徒は興味・関心を喚起させ、生徒自身の自発的な態度が育成されたことが、その感想から分かります。また、道徳科の授業の様子を学年通信で啓発することは、道徳的な実践意欲や態度を育てるのに効果的です。道徳科の授業「養生訓」【節度、節制】を基に、生徒がオリジナル「養生訓」を作成し通信で紹介したのも、生徒の感想を学級で留めておくよりも、家庭と共有することでより道徳性を養うことができるという良い実践例です。

キャリア教育を実践する上で、キャリア・パスポートの活用は必須です。現代的な課題としてスポーツの分野から大谷翔平選手を題材とした豊富なスライドは、生徒が問題意識もって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするための工夫といえます。その上で、キャリア・パスポートの巻頭言は生徒の心をゆさぶり、道徳教育とキャリア教育双方のねらいにせまる実践となりました。

二つの提言とも、児童生徒の実態等を踏まえ、道徳科と他の教育活動との関連が図られた実践例として大変参考になる提言でした。両教諭が今回の提言のために、かけた時間や労力を考えると頭が下がる思いです。今後は、他の教育活動との関連において「取り扱う機会が十分でなない内容項目に関わる指導を補う」、「内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりする」ことや年間指導計画の位置づけに留意し、一層の実践の充実と両教諭の御活躍に期待しております。